



てんじんえんぎえまき
天神縁起絵巻

1軸

室町時代中期写

縦 30cm 横 13.8m

室町末期から江戸初期にかけて、金泥・金銀箔等の鮮やかな色彩を用いた絵入り写本が盛んに作られた。今日、奈良絵本と呼ばれ、お伽草子や幸若・謡曲等を内容とし、形態的には冊子に先行して絵巻があったと考えられている。ことに大型の冊子本や絵巻は嫁入り本、棚飾り本として用いられた。本館は、奈良絵本約九十点を所蔵する。

「天縁起絵巻」は、菅原道真の生涯を物語としたもの。延喜の帝の時、才学・芸能共にすぐれ、帝の覚えもめでたい菅原の大臣（道真）と、才学・歌連歌の道に至るまで道

真に劣る藤原時平の二人の大臣がいた。時平は道真を妬み、帝に偽りを申し述べたため、道真は九州太宰府へ流される。一人憂き目を見る無念さに、道真は神仏に誓いをたて、自らの無実を証すために荒人神と化して都にかえり、雷神となつて時平を打ち殺す。都に様々な災いをもたらした道真の霊は、やがて北野社に天神として祀られた。

道真左遷の一件は、当初から人々に大きな衝撃を与え、「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花」で有名な飛梅の事、法力くらべ等天神縁起中の主な話は怨霊思想の背景の下に



早くから生まれていた。わらべ歌に唄われ、連歌・学問の神様となるなど天神信仰は現在も様々な形で広がっている。本絵巻は、当時の庶民的な言葉で生き生きと語られる絵詞を併せ備えた絵巻として珍重される。

表の図版は、遠流となり太宰府に向かう道真一行。右カツトは暇乞いをする武士たち。

（天理図書館 内藤和子）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし7月21日と31日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）